

小須戸小学校だより

NO. 4

令和3年 9月 6日(月) 発行



思いやりをもって生活を

教 頭 小庄司 一泰

長い夏休みが終わり、前期後半がスタートしました。今年の夏休みも新型コロナウイルスで感染症により多くの制限があったことと思います。

この夏は、東京オリンピックが開催され、連日、日本人選手の活躍が報道されました。そのインタビューの場では、多くの選手がまわりへの「感謝」の言葉を述べていました。選手の活躍の裏には、選手自身の努力に加え、選手を支える家族やコーチ、ドクター、栄養士など多くのサポートといった見えない力が集まって大きな力になっていることがあらためてわかりました。また、昨日まで行われていたパラリンピックに出場している選手たちの姿からは、ハンデを克服し、試練を乗り越えてきたこそその「前向きな気持ち」や「あきらめない心」が活躍から伝わってきました。

夏休み明けの学校生活は、デルタ株の感染拡大により自由にのびのびと行動ができないことが多くあると思います。ただ普通に生活をしていても、苦しいことや大変なことは当然あります。しかし、苦しいときでも自分のことだけを考え行動するのではなく、思いやりをもって生活していくことが大切だと感じています。

今年度、小須戸小学校では、「小須戸っ子マインド」として「尊重」「責任」「安全」をキーワードに全校体制で取り組んでいます。このコロナ禍であるからこそ、子どもたちが互いを思いやり、安心できる環境で、学習に前向きに全力で取り組んでいけるよう、教職員がサポートしていきます。また、子どもの健やか成長のために、より学校と家庭、地域がしっかり連携して、支え見守っていくことが大切になってくると思います。保護者・地域の皆様のご協力をお願いいたします。



コロナに負けず、子どもたちは元気に登校してきています。



感染予防をしつつ、子どもたちの学びを保障していきます。

自然災害に備えて

9月1日は「防災の日」でした。「防災の日」は、今から60年ほど前の1960年（昭和35年）に制定されました。また、「9月1日」は、今から100年ほど前の1923年（大正12年）に起きた関東大震災に由来したものです。

この夏も、猛暑から一変、西日本中心に豪雨災害が発生しました。温暖化の影響による異常気象から「50年に1度」「特別警報」を普通にニュースで見聞きするようになり、今後台風シーズンを迎えることから、いつ災害が襲ってくるかわかりません。

平成23年の新潟・福島豪雨では、小須戸地区も信濃川の増水により越水の危機がありました。10月に予定されている小中合同防災訓練に向け、コミュニティ協議会と連携しながら新しい地区割での組織体制づくりや避難計画づくりを進めています。学校では、今後浸水想定での避難訓練を実施する予定です。ご家庭でもハザードマップや持ち出すものの確認など、緊急時の対応についてご家族で話し合ってみてください。



陸上競技記録会頑張りました



9月1日（水）に、夏休みに行われた陸上競技記録会に参加した選手の解散式が行われました。校長先生から、選手一人一人に記録証や参加証が手渡されました。ピックスワんで自分の走りができたことや声援を送ったこと。選手の子どもたちにとって思い出に残る日になったと思います。

産休と産休代替教諭のお知らせ

夏休み前の学校だよりでもお知らせいたしましたが、2年2組の吉田早紀 教諭が、9月1日から産休に入りました。それに伴い、現在教務主任を担当している 村山 香織 教諭が後任の教諭が着任するまでの間担任します。



<吉田 早紀 教諭>

9月1日より産前休暇をいただくことになりました。4月から明るく元気な子どもたちと生活できて、とても楽しかったです。短い間でしたが、ご理解、ご協力いただきありがとうございました。

退職のお知らせ

4月から勤務されていた 木村 茂 用務員が8月末をもって退職しました。校舎をくまなく回り、豊かな経験と確かな技術で校内外の美化や校舎修繕などの環境整備に努めてくださいました。

